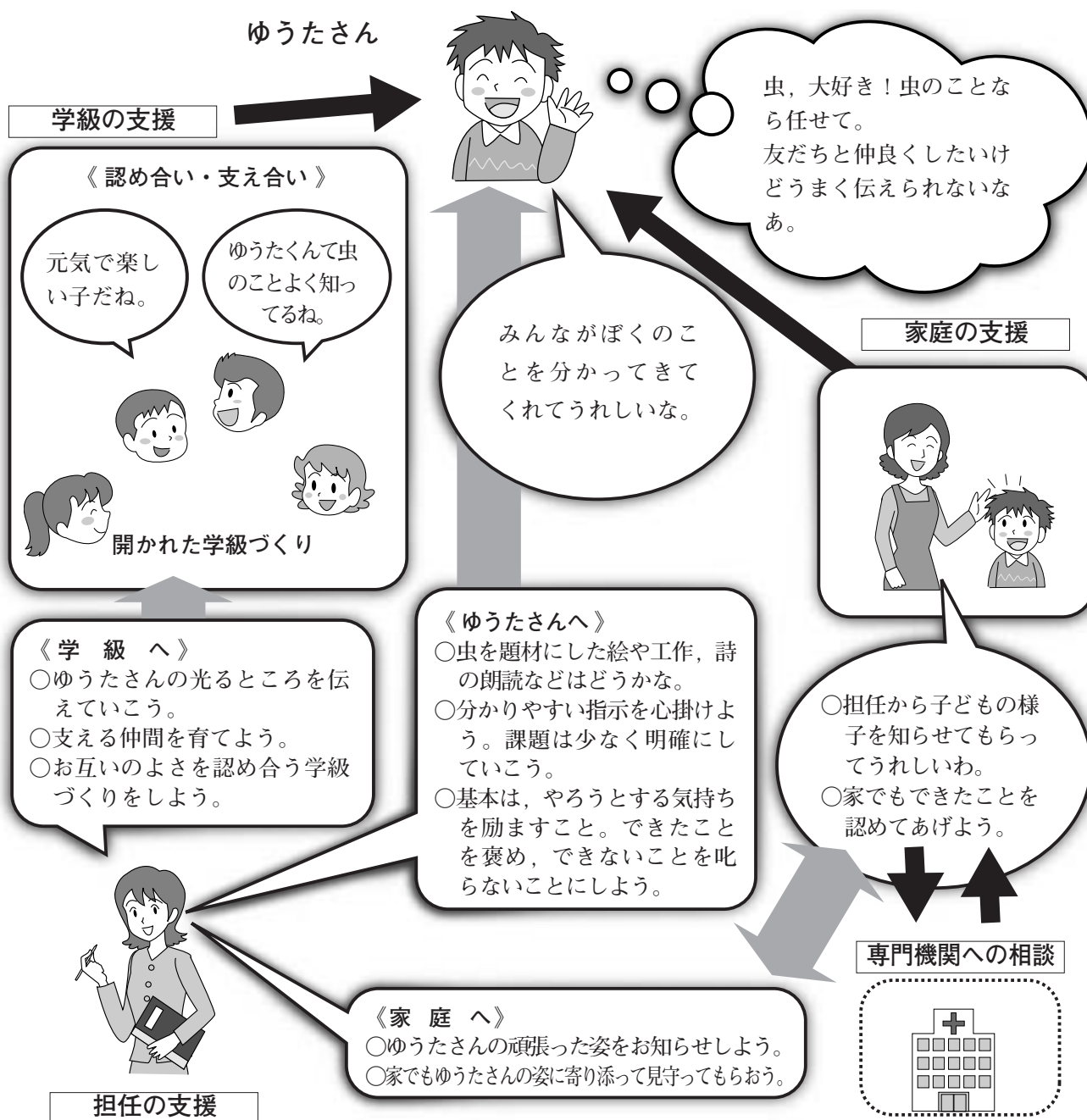


事例  
5友だちとうまくかかわることができないゆうたさん  
(小学校4年)

ADHD (注意欠陥/多動性障害)

ゆうたさんは「虫博士」。虫の名前や特徴をよく知っていて、集めるのも得意な活発な子です。けれども、動きが激しいために友だちからは乱暴な子と思われがちです。言葉でうまく気持ちを伝えられないためについ手を出してしまい、友だちとうまくかかわることができません。



大好きな題材を用いたことで自信をもち、友だちや家族に認められることが増えることで、気持ちが安定してきました。学級集団もお互いを支え合うことができるように成長しています。

## ●多動で友だちとうまくかかわれなかったゆうたさん

ゆうたさんは生き物が大好き。名前や特徴をよく知っていて、低学年のときは「虫博士」と呼ばれていました。野外活動ではだれよりも虫を集めて、友だちをびっくりさせることがありました。

4年生で学級替え。新しい友だちと仲良くしたいけれど言葉ではうまく伝えられず、つい手を出すことになってしまいました。動きが激しく急に抱き付くなどの衝動的な行動が多いため、ゆうたさんのことをあまり知らない友だちからは、乱暴な子と思われがちでした。

## ●キーワードは大好きな「虫」

少しでも集中して活動できるように、ゆうたさんの大好きなことを生かした学習活動を展開しました。キーワードは「虫」。虫を題材にしたお話や詩の読み聞かせをする時は、席も離れずよく聞きました。虫たちが主人公の詩の朗読が始まると喜んで取り組み、家の人にも聞いてもらってきました。何度も繰り返して読むうちに、すっかり暗唱してしまいました。主人公になりきり張り切って読むゆうたさんに友だちも大喜びです。読むことに抵抗感の強かったゆうたさんでしたが、この朗読をきっかけに自信が生まれ、落ち着いて取り組めることが多くなりました。

工作でも、虫を題材にすると黙々と活動しました。多動も好意的に受け入れられることが増え、時々ひょうきんなことを言って友だちを笑わせるゆうたさんは、次第に人気者になっていきました。

## ●家庭との連携でよさを認める場面を

朗読に熱中するゆうたさんの姿は家族の心を大きく動かしました。そこで、毎日の様子を連絡ノートで知らせたり相談の時間をとったりして、家族にも認めてもらえるように働き掛けました。

### 《家庭にお願いしたこと》

- 担任からよかったことや頑張っていることを伝え、家でもうんと褒めてもらう。
- 友だちとトラブルがあっても強く叱らない。話をよく聞き、不安を取り除くように努める。
- 宿題は時間を決めて取り組み、できないところがあっても叱らない。学習量が少なくてもできたことを認める。

「家で褒められることが増えてうれしい」と、母親から喜びの感想が寄せられました。ゆうたさんは学級や家庭など、様々な場面で褒められ、気持ちが安定する日が多くなりました。

## ●ゆうたさんと学級集団の成長

「虫」をキーワードにした活動に夢中になって取り組むゆうたさんを通して、友だちは「みんなよさがある」ということに気づいていきました。ゆうたさんを理解する友だちが生まれ、ゆうたさんが授業中に落ち着かない時、上手にサポートする姿も見られるようになりました。ゆうたさんも自分のありのままを認めてもらえたことで、安心して友だちとかかわろうとするようになりました。今では一人遊びが減り、休み時間になると友だちと一緒にキックベースを楽しんでいます。

学級の歩みの中で生まれた  
ゆうたさんの作品を紹介します。



ゆうたさんの成長  
は、学級の成長でも  
あります。

## 1 詩集「のはらうた」との出会い（4年）



ゆうたさんが作った「おれはかまきり」の原稿とお面

虫たちが主人公で分かりやすく  
楽しい作品に大喜びのゆうたさ  
ん。

「かまきりりゅうじ」の「おれ  
はかまきり」の詩がお気に入り  
でした。覚えた詩を発表すること  
になってやる気満々。暗唱のため  
に自分から視写した原稿を作っ  
て練習し、発表の日には家でかま  
きりのお面を作ってきました。

お面をつけての発表は、身振り  
手振りも自然に付いて、「かまき  
りりゅうじ」になりきっての大熱  
演でした。

## 2 色紙作りへ（5年）

書写の学習の中で、「生活の中の書写」に  
取り組む活動を行った時のこと。

学級のみんなが親しんできた「のはらう  
た」の中から、好きな作品を選び自由に絵  
を添えて色紙を作ることにしました。ゆう  
たさんは「たんぼぼはるか」の「ねがいご  
と」を選びました。初めて虫以外のものか  
ら題材を選択しました。

下書きも終わってよいよ本番。真っ白  
な色紙を前に真剣です。緊張のために小筆  
を持つ手が震えていました。ものも言わず  
1時間、じっと集中して文字を書き、線か  
らはみ出さないように気を付けながら丁寧  
に色付けをして仕上げました。

細かな作業や文字を書くことが苦手だったゆ  
うたさんですが、一番に仕上がったこの色紙を見て、学級みんなが「オーッ」と感動のため息をつ  
きました。



「のはらうた」を色紙に

### 3 学級通信を通じて理解を広げる（6年）



学級通信より（6年）

子どもたちの光った姿や心にとま  
ったことを共感し合うことが目的で  
発行していた学級通信に、ゆうたさ  
んへの称賛の言葉もできるだけ逃さ  
ず載せるようにしました。

よい評価を共有することがゆうた  
さんへの理解を一層深め、ゆうたさ  
ん自身も自信をもてるだろうと考え  
ました。詩の朗読や様々な作品作り  
の中でゆうたさんの光る姿をたくさ  
ん見つけてきた子どもたちは、素直  
な気持ちでその思いを日記に綴って  
きました。

家庭でもそれを読んでもらうこと  
で、おうちの人たちにも子どもたち  
の目を通したありのままのよさが伝  
わることを願いました。

### 4 たくさんの成長（6年）

卒業が近付いたころ、気に入ったも  
のを見つけて絵をかき、それに詩を添  
えて色紙にすることになりました。

ゆうたさんは学級で掘ったさつま芋  
の調理の残りを見つけてきました。あ  
れこれ考えて作った詩は「のはらうた」  
のような楽しさがありました。画面構  
成も迷うことなくあっという間に構図  
が決まり、色も生き生きとして、味  
のある色紙が出来上がりました。“虫博士”  
だったゆうたさんの関心や創造力は、  
様々な方面に向かって広がってきて  
いたようです。

物事を見つめる目が確かさを増し、  
一つのことにかかなり長い時間集中して  
取り組めるようにもなりました。



色紙：自作の絵と詩で 6年